

生殖世代の性的欲求の度合い：性交渉と自慰行為

Sexual desire among people in the reproductive ages: Sexual activity with/without a partner

森木美恵（国際基督教大学）、松倉力也（日本大学）

Yoshie Moriki (International Christian University),

Rikiya Matsukura (Nihon University)

moriki@icu.ac.jp, matsukura.rikiya@nihon-u.ac.jp

当報告では、今まで検証されてこなかった日本人集団における性的欲求の度合いについて実証的に分析する。昨今、「セックスレス」夫婦や「草食男子」など性行為を推進する「リビドー」の低さを示唆する現象が社会問題として、また低出生の一要因として議論されている。しかし、実際の性的欲求レベルについては、実証分析が可能なデータが不在であったため未検討であり、他集団や他世代との比較においてほとんど何も確認できていないのが実情である。またパートナーシップ（性交渉の相手）の種類観点からは、性風俗や婚外恋愛の活発性が一般に取りざたされる状況を鑑みると、性的欲求の高低については「相手次第」であるという仮定も想定できる。さらに、ネット環境や付随するコンテンツの充実などによって、（種類は問わず）性交渉のパートナーを必要としない性行為（自慰行為）がより好まれ選択されている可能性も考えられる。よって、特に現在生殖活動期にある人々にとって、どの程度の性的欲求が存在し、またその欲求がどのような形で解消されているのかという議論は日本の低出生問題の具体的対応策を考えるうえでも非常に重要である。

今回の報告では、まず、全国調査「第2回仕事と家族」より未婚の男女（20~40歳代）の性交渉の経験率について分析した。女性の約23パーセント、男性の約25パーセントが性交渉の経験がないと回答している。この結果について、欲求はあるが機会がないため性交渉が実現できていないのか、それとも欲求自体が希薄なため結果として性交渉が発生しないのかを詳しく検討するために、2020年1月にパイロットスタディとして収集された「性的欲求尺度」についてのデータ（一般男性18~49歳150名）を分析した。暫定結果によると、約4分の1の対象者が過去1か月に一度も（相手を伴う）性的行為への欲求がなかったと回答している。また、18~25歳の若年層のほうが欲求がなかった率が高いことも注目値する。さらに、一人での性的行為についても20パーセント以上の男子が過去1か月に欲求がなかったと回答している。